



岡野恵美

日本共産党三重県議会議員

No.18 秋季号 県議会報告
2016・11・27 岡野恵美事務所
〒514-0016 津市乙部 21-25
Tel/Fax 059-273-5505
メール emi-okano-jcp@wb4.so-net.ne.jp

国保の引き下げ

憲法

補修費増額

県民の声・願い、最優先に



県議会9月定例会月会議で岡野議員が行った一般質問をお知らせします。

国保

国保への声、国保をめぐって

全国的に、高すぎる国民健康保険料(税)が問題になっています。津市では、今年度から21%もの値上げを行い市民から悲鳴があがっています。

収入の2割近い国保料を払っていたが転職を機に払えなくなった人。延滞になった人からの相談も増えています。「国保が、あまりに高すぎるのではないかと知事の考えを求めました。津市のモデルケースでは、協会けんぽの二倍にもなっています。

三重県下25の市町で一般会計や基金から約49億円もの繰り入れを行い保険料をあげない努力をしました。県が財政運営を担うことになる、繰り入れができなくなり、もつと保険料があがるのではと心配されます。これに対し、医療対策局長や知事からは、「国保料増加の激変緩和措置が国で用意されている。不安や混乱が生じないように協議を重ね準備をしていきたい」という答弁でしたが、国の財政支援は、少なすぎです。

補修費

新堀地区の防潮堤修繕約束
住民の要望に応え
県土整備部長が答弁



数年来、賢崎町自治会から、防潮堤のコンクリートひび割れや落ち込みがひどく、早急に改修してほしいと要望が出されていました。この声にど

う応えるのか質問をしました。

やっと修繕するとの答えが得られました。新堀地区の、緊急に修繕を要する1か所は、本年度改修する。他の修繕ヶ所についても、30年までに修繕するとの答弁でした。

また、住民に身近なインフラ整備の予算が6、7割も減らされているため、県下各地からの危険箇所修繕の要望に応えられていないのは問題。要望に早急にこたえられる予算の増額を求めました。

★国保へ3つの提言★

- 1、国に国庫負担金の増額を求めること(現在では発足時の半分になっています)
- 2、県は、国保財政に一般会計から繰り入れること
- 3、繰り入れや保険料を決めるなどこれまで通り市町村の自主性を守ること

岡野議員は、高すぎる国保料を解決するために、次の三つの提言を行い、知事に実行を求めました。

憲法

知事の立場を問う

憲法に対する知事の姿勢は、これまでに相反する二つの立場が示されています。いったいどちらなのか?

「知事は憲法について、これまでに改憲と遵守の両方の立場を表明され、参院選では改憲の自民党の候補を応援しました。選挙が終わって改憲勢力が国会の三分の二になった今、どちらを支持されるのですか。」と迫りました。

知事は、「県知事として憲法順守の立場にある」と答えました。当然の答えではありますが、今後の県政に臨む様々な場所での立場を貫いて欲しいものです。

安全性に問題ないか? 志登茂川浄化センター



建設中の津市白塚町の中勢流域下水道志登茂川浄化センターは、平成19年、くい打ちデーターの改ざんが発覚し、工事が中断。載荷試験後、工事が再開しています。10月21日、豊洲市場のような事がないか、施設を訪ね、調査しました。平成30年稼働予定ですが、引き続きチェックしていきます。

赤川水害対策を急げ!

赤川と雲出川合流部は、大雨になると大水害になり、対策の早期実現が望まれています。地元、三地区の自治会長、松阪市と津市選出の県議会議員とともに津建設事務所長と松阪建設事務所長に要望書を提出して懇談しました。

津建設事務所の里所長は「十月一日に協議会を発足していただき、地域の総意として悲願であったと認識している。国といっしょに連携をとって議論していきたい。また国に一日でも早い本線(雲出川)しめきりを要望していきたい」と述べました。